

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 24 日現在

機関番号：32630

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2015

課題番号：24730295

研究課題名(和文)近代中国におけるビジネススクールと高等商業教育 銀行業との関連から

研究課題名(英文)Business School and Higher Commercial Education in Modern China

研究代表者

林 幸司(HAYASHI, Koji)

成城大学・経済学部・准教授

研究者番号：30612775

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：第一次世界大戦後の中国は、経済発展の黄金期を迎えた。上海租界を中心とする都市部では、綿紡織業などの近代産業が相継いで設立され、産業金融が発展し、証券取引所が設けられ、近代株式銀行が大きな成長をとげた。これら新たに誕生した業界には、アメリカ系教会学校附設のビジネススクールでビジネス教育を受けた人材が送り込まれた。これら新たな経済人は、徒弟制度にもとづく伝統的企業のありかたを刷新していく。本研究は、近代中国におけるビジネススクールと高等商業教育の展開について、銀行業の発展と関連づけながら検討し、当時出現した新たな経済人が、社会の内側から伝統的商慣行を変容させていく過程を解明する。

研究成果の概要(英文)： Post world war I China was the golden age of economic growth under unequal treaty regime. In the Shanghai concession, many modern enterprises -such as cotton textile manufactures- founded one after another. Simultaneously, industrial finance was developed, stock market established, modern banking developed rapidly. In these enterprises, many businessmen that educated in business school on American Christian university took active part in business activity. This project analyzed how these new businessmen changed the traditional commercial customs on modern China.

研究分野：経済史

キーワード：銀行 高等商業教育

1. 研究開始当初の背景

第一次世界大戦終結後、1920～30年代にかけて、中国では経済発展の黄金期を迎えていた。上海租界を中心とする都市部では、綿紡織業等の近代産業が相継いで設立されるとともに、産業金融が発展し、証券取引所等が整備された。こうした状況の中、19世紀末に出現した新しい金融業 近代株式銀行が、大きな成長をとげることとなる。

このように中国経済が世界経済へと接合される過程において、複式簿記や会計制度、株式会社制度、債券発行や証券取引、産業金融とリスクマネジメント、電信を用いた為替取引など、新たな知識とノウハウが必要とされた。これらの知識は、高等教育機関における高度な教育を受けてはじめて身につけることが可能となる。こうした人材養成の役割を担ったのが、アメリカ系の教会学校に設置されたビジネススクールであった。ここで最先端の「近代的」ビジネス教育を吸収した経済人は、徒弟制度に基づく伝統的企業のありかたを刷新し、中国経済と世界経済を接合させるキーパーソンとなっていった。

近代のビジネススクールと高等商業教育の展開については、マーシャル等による先駆的研究 [引用文献1] や、社会学的立場からアメリカの事例を分析したクラナの研究 [引用文献2] が、日本については西澤保 [引用文献3] をはじめ多くの研究がある。このように、経済史・商業史研究において、ビジネススクールに関する研究は注目を集めている分野である。しかし中国については、商業教育の立場から分析した常国良の研究 [引用文献4] を除いて、本研究のような問題意識に基づく研究はそれほど注目されてこなかった。

2. 研究の目的

本研究は、以上の問題意識のもと、これまでほとんど検討されてこなかった、近代中国におけるビジネススクールと高等商業教育の展開について、銀行業の発展と関連づけながら検討し、近代中国に出現した経済人が、社会の内側から伝統的商慣行を変容させていく過程を実証的に解明することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究では、以下の三つのテーマについて検討をおこなった。

第一に、近代中国におけるビジネススクールの設立過程、およびその教育内容について、アメリカを中心とする欧米諸国の高等商業教育と関連づけて検討した。本研究では、19

世紀末に上海で設立されたアメリカ系高等教育機関である上海聖約翰大学 (St. John's University, Shanghai) と、その設立母体であったアメリカ聖公会 (The Episcopal Church in the United States of America) および内外宣教協会 (The Domestic and Foreign Missionary Society) の三者を主要な事例としつつ検討をすすめた。

第二に、ビジネススクールの教育およびその結果輩出された人材がどのような影響を与えたのかについて、主要な就職先であり研究代表者が長年研究を続けてきた銀行業界との関連を念頭に置きつつ検討した。

第三に、ビジネススクールにおける教育内容と、伝統的企業のありかたとの関係について検討した。

上記研究を進める上での方法の独自性は、以下の2点である。

第一に、アメリカ系教会学校において設立されたビジネススクールという具体的な研究対象を設定し、これを中国・アメリカ・香港・日本の視点から位置づけることである。

第二に、ビジネススクールの分析を、研究代表者が研究を進めてきた銀行業界の動向と結びつけ、欧米に端を発する高等商業教育が中国の商慣行を内側から変革していく過程を明らかにすることである。

4. 研究成果

本研究における研究成果および今後の課題は、以下の通りである。

第一に、近代中国において誕生したビジネススクールの設立過程、およびその教育内容について、19世紀末に上海で設立され、当時最も著名であったアメリカ系高等教育機関である上海聖約翰大学と、アメリカ聖公会および内外宣教協会の関係に注目した。まず、中国におけるビジネススクールの誕生と背景について、中国上海市檔案館とアメリカ聖公会アーカイヴ (The Archives of the Episcopal Church)、フーヴァー・インスティテューション・アーカイヴ (Hoover Institution Archive) において収集した資料に基づいて、中米両面の視点から検討した。これらの検討により明らかになったのは以下の諸点である。

(1) 近代中国におけるアメリカ系ビジネススクールが、米国の宣教ミッションや政財界のニーズと緊密な関係をもちながら形成されていたこと。

(2) カリキュラム編成などが米国を中心に世界同時的に普及していた高等商業教育の流れに沿った「雇われ経営者」養成に基づくものであり、いわゆる「実業教育」とは一線を画するものであったこと。

(3) そしてそれが中国人の富裕層の高等教

育に関わるニーズと合致したものであったこと。

以上の諸点は、近年盛んに議論されている宗教的営為とビジネス展開という帝国論の文脈[引用文献5]が、中国にどのような社会経済的影響をもたらしたのか、という問題を考える上でも、突破点となり得る成果である。

第二に、研究代表者がアメリカ・ペンシルヴァニア大学アーカイヴ(University of Pennsylvania Archive and Record Center)、議会図書館(Library of Congress)、国立公文書館(National Archives and Records Administration)において収集した中国人留学生に関する資料と、研究代表者がこれまで研究を進めてきた銀行の具体的事例[引用文献6]をもとに、ビジネススクールの教育およびその結果輩出された人材の主要な就職先の動向と、銀行業界における位置づけについて検討した。これらのテーマについて、本研究ではとりわけ沿海部の中心都市上海と内陸の拠点都市重慶の銀行業および銀行公会の關係に着目し、1920年代の銀行業界が求めた職能や、新たに出現した経済人達が担当した業務および職場における地位について具体的に検討した。これらの検討により明らかになったのは以下の諸点である。

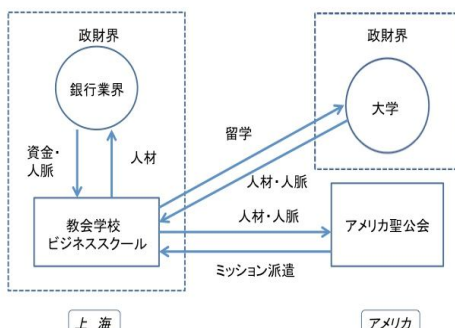
(1) 上海聖約翰大学ビジネススクールが、アメリカ留学の窓口としての機能を持っていたこと。

(2) 卒業生が即戦力として銀行内で経営にかかわるとともに、現地財界の有力者としての地位を築いていたこと。

(3) 在学中から同郷組織などを通して人脈ネットワークを形成していたこと。

第三に、アメリカにおける中国人コミュニティの形成と中国との關係について検討するため、カリフォルニア州サンフランシスコおよびオークランドのチャイナタウンにおいて、文献調査とともにインタビュー調査を通じた予備的調査をおこなった。

図1: ビジネススクールと銀行業界をめぐる上海・香港・アメリカの關係



以上の検討により明らかになった諸点を図示したものが上記[図1]である。

上海聖約翰大学ビジネススクールを事例とした本研究の成果により、近代中国が世界経済と接合される際に経済制度や商慣行にどのような変動が生じたかという問題を、具体的に明らかとすることが可能となった。こうした結果は、外的要因が内部に取り込まれ独自の中国的秩序を形成するにいたる過程、ひいては中国経済のダイナミズムを理解するという、今日的意義を兼ね備えるものである。以上の研究成果については、国内外の学会報告および図書および学術論文の形で公表した。また、現在引き続き複数の学術論文の作成を進めているところである。

なお、本研究の成果と、香港および日本などアジアにおける諸地域の高等商業教育と比較するという問題が、課題として残されている。今後は本研究で明らかとなった成果をもとに、これらの問題を中心に研究を進めていく予定である。

<引用文献>

[1] L.C. Marshall eds. *The Collegiate School of Business: Its Status at the Close of the First Quarter of the Twentieth Century*. The University of Chicago Press, 1928.

[2] Khurana, Rakesh. *From Higher Aims to Hired Hands, The Social Transformation of American Business Schools and the Unfulfilled Promise of Management as a Profession*. Princeton University Press, 2007.

[3] 西澤保「福田徳三・上田貞次郎と東京商科大学の形成」同『マーシャルと歴史学派の経済思想』岩波書店、2007年

[4] 常国良『近代上海商業教育研究』黒龍江大学出版社、2008年

[5] Andrew Porter. *Religion Versus Empire? British Protestant Missionaries and Overseas Expansion, 1700-1914*. Manchester University Press, 2004.

[6] 林幸司『近代中国と銀行の誕生：金融恐慌・日中戦争・そして社会主義へ』御茶の水書房、2009年

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者および連携研究者)

には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

[1] 林 幸司「日中戦争与重慶銀行業」『抗日戦争研究』総第90期、2013年、103-117頁、中国語

[2] 林 幸司「大戦後台湾における同郷会組織の形成-四川人の移動と人脈形成を中心として」『成城大学経済研究』第200号、2013年、167-188頁

〔学会発表〕(計4件)

[1] 林 幸司「近代中国高等商業教育之黎明」(第1回民国史青年論壇、中国社会科学院近代史研究所、中国語、2016年8月、予定)

[2] 林 幸司「日中戦争与重慶銀行業」(中日戦争国際共同研究第五次会議、中国重慶市、中国語、2013年9月)

[3] 林 幸司「上海における高等商業教育の展開：銀行業との関連から」(成城大学経済研究所ミニシンポジウム、成城大学経済研究所、2012年10月)

[4] 林 幸司「近代中国における高等商業教育の展開：上海における教会学校を事例として」(福田徳三研究会、一橋大学、2012年10月)

〔図書〕(計1件)

[1] 林 幸司「日中戦争と重慶銀行業」久保亨・波多野澄雄・西村成雄編『戦時期中国の経済発展と社会変容』(日中戦争の国際共同研究5)、慶應義塾大学出版会、2014年、41-64頁

〔その他〕

ホームページ等

<https://sites.google.com/site/kojiswebs/ite/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

林 幸司 (HAYASHI, Koji)

成城大学・経済学部・准教授

研究者番号：30612775